

経営比較分析表（令和6年度決算）

神奈川県 逗子市

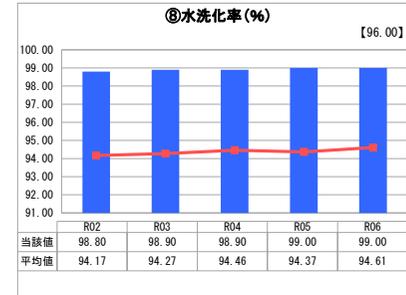
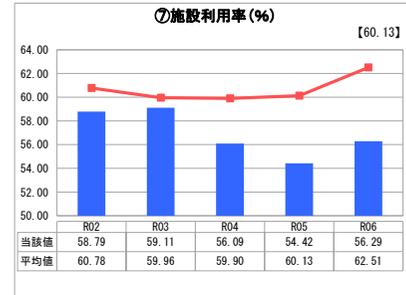
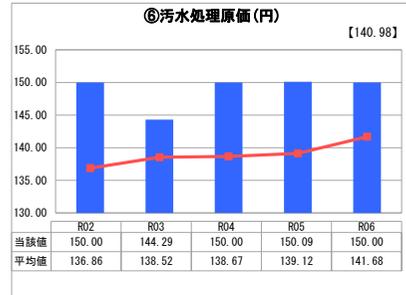
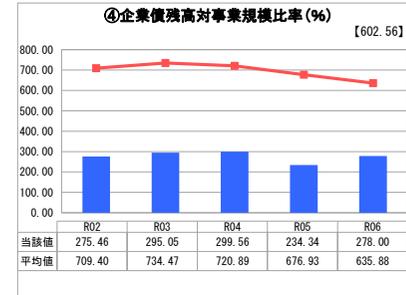
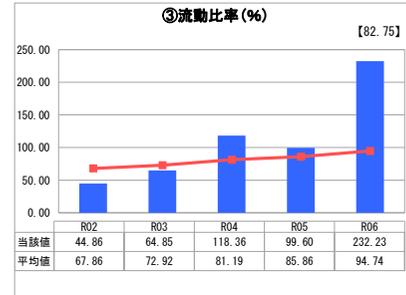
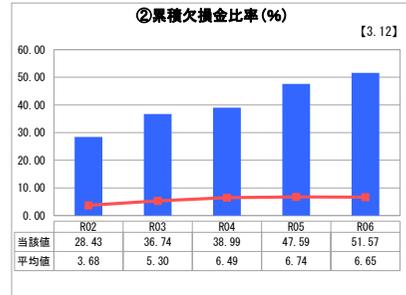
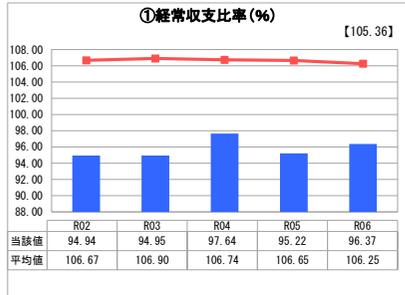
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.93	100.00	76.80	2,147

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
57,827	17.28	3,346.47
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
57,658	8.64	6,673.38

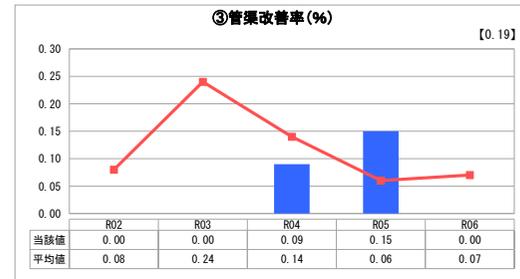
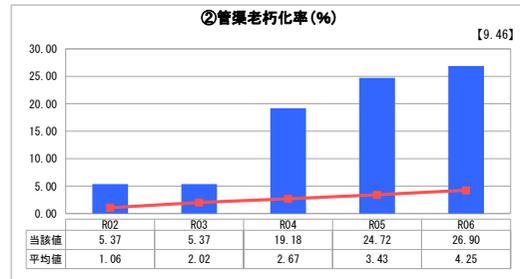
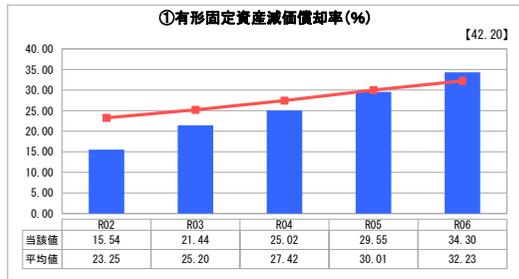
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市では、平成31年4月1日から地方公営企業法の一部適用（財務適用）し、企業会計へと移行しました。本年度は、前年度に引き続き決算で欠損金が発生したことから、経常収支比率が100%を下回り、累積欠損金比率は前年度からさらに悪化しています。

経営の改善のため、令和4年7月1日に使用料の改定を行い、令和5年度以降、若干良化したものの、依然100%を下回っていることから、使用料で回収すべき経費を使用料で賄っておらず、適正な経営状況とは言えません。この状況を改善するため、令和8年7月1日に使用料を改定し、令和9年度決算において経常収支比率及び経費回収率が100%に達する見込です。

企業債残高対事業規模比率においては、普及率が100%であり維持管理を中心とした経営であることから、類似団体平均値と比較して低い傾向にあります。また、今年度は流動比率が高い数値を示しており、処理場の再整備等の大規模な施設更新に資金を確保している状態ですが、今後企業債の増額が見込まれており、より厳しい経営状況となることが予測されます。

施設利用率は比較的低い状態ですが、今後処理場の再整備計画を策定する段階で、より適正な施設規模や処理手法等の検討を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半に供用開始した本市においては、老朽化が深刻な状況になっています。

類似団体や全国の平均値と比較すると、管渠老朽化率が高く、前年度からさらに悪化しています。これに対し、令和2年度より管渠のストックマネジメントを計画的に実施しているものの、管渠改善率が大きく伸びていないことから、今後は老朽化対策工事について鋭意計画的に実施していく予定です。

処理場・ポンプ場については、現行のストックマネジメント計画に基づいて機器や施設の更新を実施しています。

全体総括

下水道施設の老朽化が進んでいることを踏まえると、今後より厳しい経営状態で推移することが予測されます。

施設の老朽化については、処理場の再整備を鑑みながら、ストックマネジメント計画に基づき計画的な更新や修繕を行っていきます。また、収入面に関しては、令和6年度から令和7年度にかけて使用料改定についての検討を進め、経常収支比率及び経費回収率100%を目標に、令和8年7月1日に使用料改定をします。将来にわたって健全な経営を持続的に運営していくため、使用料改定による収入確保、効率的な施設の維持管理、そして計画的な更新投資の実施により、浄水管理センターの再整備に向けた資金確保を行っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。